

令和 4 年 9 月 8 日現在

機関番号：34516

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00978

研究課題名(和文) 日本古代における中国の怪異・ト占をめぐる知識と技術の受容

研究課題名(英文) Acceptance of Knowledge and Techniques of Chinese Mysteries and Divination in Ancient Japan

研究代表者

大江 篤(OE, ATSUSHI)

園田学園女子大学・経営学部・教授

研究者番号：10289051

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本古代における中国の怪異・ト占をめぐる知識と技術の受容について明らかにすることをめざした。1)ト占の知識と技術の伝来と受容の実相を明らかにした。2)祥瑞災異思想の受容についての書物を比較検討した。3)怪異・ト占知識の国家管理の実態を解明した。具体的には、日本古代において怪異を解説する役割を担った神祇官と陰陽寮に着目した。研究成果として、『怪異学の地平』『皇位継承の歴史と儀礼』『怪異学講義 王権・信仰・いとなみ』を刊行し、特別展「吉兆と魔除け」を開催、小冊子を作成した。また、中国殷墟等への海外調査をふまえたシンポジウムをはじめ、毎年、研究会で議論を深め、今後の研究課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、中国の怪異・ト占をめぐる知識、およびそれに伴う技術・技能が、日本の古代社会において、いかなる経緯でもたらされ、受容されたかについて、学際的視座に立つことで、従来とは異なる東アジアの<知の流通>のあり方を明らかにした。また、研究期間中に実施された天皇即位の行事において亀トが実施されたことを契機に、近世大嘗祭に係る新たな史料の調査を実施することができ、日本古代にとどまらず日本社会における知と技の伝播と伝承について新たな研究課題を見出すことができた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to clarify the acceptance of knowledge and technology concerning Chinese mysteries (怪異) and divination in ancient Japan from the following three perspectives: 1. to grasp the actual situation regarding the transmission and acceptance of knowledge and techniques related to divination; 2. to compare and contrast books on the reception of Shozui Sarii (祥瑞災異); 3. to elucidate the actual situation how the state controlled knowledge on Chinese mysteries and divination.

Specifically, we have focused on Jingikan (神祇官) and Onmyoryo (陰陽寮), which were responsible for explaining the mysterious in ancient Japan. Three books were published as a result of this research, followed by the organization and producing of the special exhibition and its catalogue. In addition, discussions were deepened at the annual research meetings, including the symposium based on overseas research into Shang ruins and other sites in China, and future research issues were identified.

研究分野：日本史

キーワード：怪異 亀ト 骨ト 大嘗祭 祥瑞災異 六壬式占 知の流通 殷墟

1. 研究開始当初の背景

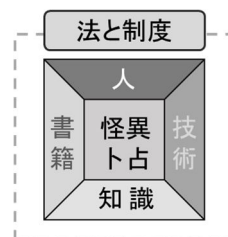
本研究で扱う「怪異」とは、神意や予兆を表す現象として史書に記載される異常現象を指し、そのルーツは、中国の祥瑞災異思想や天人相関観念に遡る（『怪異学入門』岩田書院2012）。中国古代では、為政者の治世に問題があるとき、天が災害や怪異を下して警告し、逆に天下泰平であれば、祥瑞（瑞祥）を下すと考えられた。これを祥瑞災異思想と言い、また、その背景にある人の行為が天と連動するという考えを天人相関観念と言う。

これらの思想は漢代に儒教が国教化したことで国家理念となり、以後、歴代王朝で怪異が正史に記録されてゆく。一方、日本でもこの思想が受容され、王権構造に深い影響を与えた。特に日本古代では、怪異は神仏が下すものと考えられ、卜占により神意が判断されることで、それが政治的意味を有していた。（西山克「怪異のポリティクス」『怪異学の技法』臨川書店2003）。このような「怪異」については、従来一定の研究蓄積がある。しかし、こうした見方が、中国及び日本の思想・社会についてのステレオタイプな理解に依拠していることが最近の研究から分かってきた。こうした最近の成果を踏まえれば、今後、より掘り下げた日中比較研究が求められる。

そこで本研究では「中国の怪異・卜占をめぐる知識、およびそれに伴う技術・技能が、日本の古代社会において、具体的にいかなる経緯でもたらされ、受容されたか」を核心的問いとして設定し、怪異をめぐる日中比較を進めてゆく。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中国の怪異をめぐる知識と技術が日本にどのようにもたらされ、受容・変容していったかを検討することで、日本古代国家の形成・展開過程と「怪異」の関係を文化受容の観点から問い直すことにある。具体的には、人と技術、技術と書物、法と制度の三つの観点から考察を行う。



人と技術（卜占技術の伝来と受容）

怪異の判断方法として、中国からもたらされた亀卜と六壬式占の技術およびそれを担う卜部や陰陽師について、中国思想・考古学・民俗学などの成果も取り入れ、その伝来過程と、受容のあり方について検討する。特に亀卜については、これまでの研究をふまえ、卜部の出身地での考古資料調査や灼甲技術の復元研究も合わせて研究をすすめる。

知識と書物（怪異知識の伝来と受容）

平安時代初期に藤原佐世により書かれた『日本国見在書目録』にみえる祥瑞災異思想・五行思想・天文思想にもとづく占書や理論書を検討し、中国の伝来文献との比較により、日本の古代に相当する中国の漢～宋代の怪異知識が日本にどのように受容されたかについて研究する。特に本研究では、日本に受容された知識とされなかった知識、また受容の過程で変容した知識などに着目して検討を行なう。

法と制度（怪異をめぐる知識と技術に対する国家管理体制）

中国の怪異をめぐる知識と技術の伝来と受容を、国家組織と法制度の面から考察する。

特に怪異の判断やト占を行う官僚機構である神祇官・陰陽寮の成立、大陸からの知識の伝来を担った遣唐使・遣新羅使の派遣に着目し、古代律令国家における怪異・ト占知識の管理体制の形成過程を具体的に明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、人と技術、知識と書物、法と制度の三点を下敷きに、以下の体制・役割分担により研究を進める。

代表・大江は、日本古代史の立場から、のテーマを中心に、亀トと六壬式の技術を復元し、その担い手であるト部と陰陽師についても研究を進める。また、その一環として、ト部の出身地である壱岐・対馬・伊豆でも大江の主導により考古資料などの共同調査を行う。

分担・佐々木は、中国哲学の立場から、特にのテーマを中心に、日本古代に伝来した中国の書物（主に怪異占書、天文占書）を分析し、その多様性と具体的な知識の全体像を可能な限り明らかにする。その上で、大江・久禮と連携して、その中でどのような知識の取捨選択が行われたかを考察する。

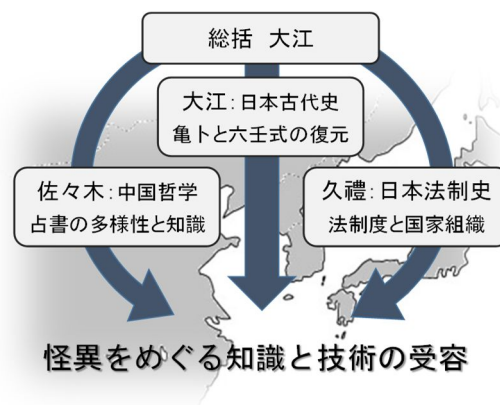
分担・久禮は法制史の立場から、のテーマを中心に、神祇官・陰陽寮および遣唐使の派遣に関する国家組織のあり方を明らかにする。特にの成果を踏まえ、国家組織が怪異をめぐる知識と技術の受容においてどのように機能したのかを具体的に明らかにしてゆく。

4. 研究成果

○2018 年度

各自が設定した研究を進めると同時に、全体としては、「亀ト」とそれを担うト部を輩出した地域を中心に日本国内の調査を実施し、同時に『新撰亀相記』や『宮主秘事口伝』などト占関係の史料と合わせた検討も行う予定を立てた。各自の研究に関しては、東アジア怪異学会編『怪異学の地平』に論文を執筆し、2019年3月16日には、明治大学で東アジア怪異学会フォーラム「怪異学の地平」を開催することができ、関連研究者と怪異・ト占について検討することができた。

また、亀トについて、皇学館大学神道博物館において鈴鹿家宮廷祭祀史料、神宮文庫において亀ト関係史料をはじめとする諸史料の調査を実施し、近世の大嘗祭復興期において、知識人の亀トへの関心がたかまり、多様な史料が現存していることが判明した。これまでの研究で、総合的に近世亀ト資料を分析したものはなく、調査の方向性を定めることができた。また、近代大嘗祭における亀トについても同様に検討していく必要性が明らかとなった。さらに、亀トとそれを担うト部を輩出した地域（壱岐・対馬・伊豆）を中心とした調査も実施する必要があることがわかった。現行習俗の調査を計画していたが、現地に赴く前の基礎調



査が重要であると考え、ト占関係の史料の検討を実施した。

一方、亀トと骨トの灼甲骨に関する復元実験を実施することができた。鳥取県立むぎぼんだ史跡公園の協力のもと、これまで実施してきたミシシッピカミミガメによる灼甲実験に加え、シカとイノシシの肩甲骨による実験も行った。また、ト骨が200点以上出土する同県の青谷上寺地遺跡の性格や韓半島の遺跡との関係などについて、発掘担当者と意見を交換することもできた。

○2019年度

天皇即位に係る行事があり、令和元年5月13日の斎田点定の儀で「亀ト」が執行されたこともあり、社会的な関心がたかまった。天皇即位に関する研究成果として、大江篤編『皇位継承の儀礼と歴史』（臨川書店）を出版した。この書の調査の過程で、平成即位の際に注目された鈴鹿家宮廷祭祀の亀ト関係史料とは異なる史料についての調査を行なうことができた。吉田ト部家の宮廷祭祀史料が分散するなか、鈴鹿且久家が所蔵することになったものである。これまでその存在は知られていたものの調査されておらず概要調査のみ実施した。

各自が設定した研究をすすめるとともに、全体としては、7月6日に麗澤大学において、シンポジウム「大嘗祭と亀トの世界」を開催した。佐々木聡が総合司会、久禮旦雄が趣旨説明と討論の司会をつとめ、大江篤「日本古代の亀トとト部-亀ト研究の現状と課題-」、近藤浩之（北海道大学大学院教授）「骨ト研究の現状と課題」が研究報告、コメントとして、所功（京都産業大学名誉教授・モラロジー研究所教授）「大嘗祭と悠紀・主基田」、落合淳思（立命館白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員）「甲骨占トの復元」、島田尚幸（東海中高等学校教諭・東アジア恠異学会会員）「ト甲 動物行動学からみた亀ト」の3名が報告した。また、8月には中国洛陽・安陽の現地調査を実施した。洛陽博物館・中国文字博物館・偃殷墟・師商城遺跡・二里头遺跡等の博物館・遺跡を調査し、多くのト甲・ト骨を実見した。

○2020年度

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、限られた研究環境のなかではあったが、これまで成果をふまえ、京都産業大学むすびわざ館において特別展「東アジア恠異学会20周年記念展示 吉兆と魔除け-恠異学の視点から-」（2021年2月24日～4月14日）の企画、開催に関わった。この特別展は、「吉兆」と「魔除け」に係る文物をとりあげ、これまでの研究成果をふまえ、人々が願いや祈りを託した文物を通して、祥瑞災異思想やト占技術など東アジアにおける思想や文化を知る手掛かりとした。展示にあたって、大江は「恠異学と恠異」「蘇民将来と疫病除け」、佐々木は「吉兆と祥瑞」「中国の魔除けとまじない」、久禮は「祥瑞と年号」をパネルとしてまとめ、それぞれの展示品のキャプションを執筆し、報告書（図録）として刊行した。また、この特別展に関連して、東アジア恠異学会20周年記念フォーラム「吉兆と魔除け」をオンラインで開催した（2021年3月7日）。大江が「東アジア恠異学会20年の歩み」という趣旨説明を行ったあと、「近世「髪切り」考 恠異のメディア論」村上紀夫（奈良大学教授）、「恠異学で魔除けを扱うと云うこと」京極夏彦（小説家）という報告があり、久禮のコーディネートのもと討議を行った。

○2021 年度

新型コロナウイルス感染症の拡大により、限られた環境ではあったが、2020 年度に概要調査を実施した鈴鹿且久家史料の本調査を実施するとともに、本研究での成果をふまえて東アジア恠異学会『怪異学講義 王権・信仰・いとなみ』（勉誠出版）を刊行した。

また、3年間の研究成果のまとめとして、東アジア恠異学会、基盤B「5～12世紀の東アジアにおける 術数文化 の深化と変容」（代表 水口幹記 / 課題番号 20H01301）と共催によるシンポジウム「東アジアのトと占」を実施することができた。このシンポジウムは、「怪異」とト占について、そのルーツとなった中国の祥瑞災異思想・天人相関観念との比較をふまえて、東アジアにおける知識の流通と受容の中でその位置づけを試み、日本古代における知識と技術の国家管理を明らかにすることを目的とした本研究を総括し、今後の研究課題を明らかにすることを目指した。近年、古代中国で成立した陰陽・五行の数理に基づく吉凶判断である 術数文化 の研究を進めている水口幹記氏（藤女子大学教授）の基調報告の後、研究分担者の久禮旦雄氏・佐々木聡氏の亀トに関する報告、災異占に関する大野裕司氏（大連外国語大学外語講師）が報告を行い、研究代表者の大江篤の司会のもと議論を深めた。亀ト、宿曜道、災異占等のト占の知識と技術の分析から、人と神霊を媒介するものとしてのト占研究の課題を明らかとし、怪異学の新たな視点を導き出すことができた。

○今後の研究の方向性

本研究では、「人と技術」を明らかにし、日中の知識と書物を比較検討したうえで、怪異・ト占知識の国家管理の実態を解明する（法と制度）ことを目的としている。そのなかで、怪異を認定するト占である亀ト・骨トに関する研究が進展し、これまで未調査の鈴鹿且久家宮廷史料の調査に着手することができた。

代表者の大江、分担者の久禮・佐々木が参加する東アジア恠異学会は、既に亀トについて、中国と日本では使用するカメが淡水種とウミガメで異なり、知識・技術の選択があったことを同会編『亀ト』（臨川書店 2006）で指摘した。本研究の成果として、考古資料のト甲は東アジアの骨ト・亀トと共通する点状有灼（甲羅に熱源を押し付ける）であるが、近世宮廷儀礼の亀トは全面有灼（甲羅全体を炙る）と技法も異なっており、日本の社会や文化にあわせた変容が加えられたことを明らかにしている。これらの研究は、従来ほとんど議論されておらず、近年、漸くその端緒を見出したところである。

特に骨ト・亀トの焼灼実験による研究は、かつて台湾の研究者が着手したことがあったが、現在、大陸中国も含めて行われていない。そこで今後は、中国からもたらされたと思われる亀トの技術の日本での受容と変化を中心に、中国の怪異・ト占をめぐる知識と技術の日本社会における展開を、近世の新史料に着目して明らかにしていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大江篤	4. 巻
2. 論文標題 序論・怪異学の視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア恠異学会編『怪異学講義 王権・信仰・いとなみ』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大江篤	4. 巻 18
2. 論文標題 古墳の祟り・再考：怪異学の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 遺跡学研究	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻
2. 論文標題 国家統治と怪異	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア恠異学会編『怪異学講義 王権・信仰・いとなみ』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 57-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 880
2. 論文標題 書評と紹介 塩川哲朗『古代の祭祀構造と伊勢神宮』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 76-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 2022年1月1日
2. 論文標題 元明天皇のご事績	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神社新報	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 11
2. 論文標題 日本の年号 (元号) と世界の暦	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西外国語大学イペロアメリカ研究センターニューズレター	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 27
2. 論文標題 図書紹介 小山聡子『もののけの日本史』中公新書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都産業大学日本文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻
2. 論文標題 通俗信仰と怪異 前近代中国の基層社会における災異受容史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア怪異学会編『怪異学講義 王権・信仰・いとなみ』(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 77-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻
2. 論文標題 中国歴代王朝における天文五行占書と禁書政策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 水口拓寿編『術数学研究の課題と方法』（汲古書院）	6. 最初と最後の頁 97-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 34
2. 論文標題 元号制度の来歴と新元号「令和」の意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モラロジー研究	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 書評「『古代天皇祭祀・儀礼の史的研究』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 藝林	6. 最初と最後の頁 220-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 68-1
2. 論文標題 上代の皇位継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藝林	6. 最初と最後の頁 2-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 113
2. 論文標題 三善清行 改元と怪異の「道理」を語る文人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創造する市民	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻 244
2. 論文標題 ベトナム阮朝における天文五行占の受容と禁書政策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 201-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻 239
2. 論文標題 中国古代・中世の鬼神と自然観：「自然の怪」をめぐる社会史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久禮旦雄	4. 巻 240号
2. 論文標題 伊勢神宮・伊勢斎宮の五節句ー『延暦儀式帳』・『延喜斎宮式』から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 瑞垣	6. 最初と最後の頁 pp5-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻 129
2. 論文標題 コラム：発病占の二千年史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鍼灸OSAKA	6. 最初と最後の頁 pp117-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木聡	4. 巻 130
2. 論文標題 コラム 神獣白沢と治病祈願	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鍼灸OSAKA	6. 最初と最後の頁 pp103-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 唐代の亀卜についての基礎整理
3. 学会等名 東アジア恠異学会第 134 回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久禮旦雄
2. 発表標題 日本古代の国家とト占
3. 学会等名 東アジア恠異学会第 134 回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 前近代中国の基層社会における災異受容と通俗信仰
3. 学会等名 東アジア恠異学会第 132 回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久禮旦雄
2. 発表標題 恠異と王権・再考
3. 学会等名 東アジア恠異学会第 131 回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大江篤
2. 発表標題 日本における天人相関説と恠異
3. 学会等名 東アジア恠異学会第 129 回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久禮旦雄
2. 発表標題 古代における『日本書紀』の受容
3. 学会等名 祭祀史料研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久禮旦雄
2. 発表標題 廣池千九郎博士と近代法学 穂積陳重・八束兄弟との交流を中心に
3. 学会等名 廣池千九郎研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 書評 佐野誠子氏『怪を志す：六朝志怪の誕生と展開』（名古屋大学出版会）
3. 学会等名 東アジア恠異学会第127回定例研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 特別企画「天の思想・再考」コメント
3. 学会等名 東アジア恠異学会第 129 回定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大江篤
2. 発表標題 亀卜研究の現状と課題 -シンポジウム「大嘗祭と亀卜の世界」を終えて-
3. 学会等名 東アジア恠異学会第123回定例研究会（園田学園女子大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 『礼緯含文嘉』諸本と中国近世社会における占書の流布について
3. 学会等名 北陸史学会第61回大会（石川県立博物館）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 發病占研究與保護術數文獻的意義
3. 学会等名 “從中古到近代寫本文化與跨文化交流”國際學術研討會（北京大學）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大江篤
2. 発表標題 卜部と疫病 卜占の技法と神祇祭祀
3. 学会等名 東アジア恠異学会第122回定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木聡
2. 発表標題 清代における占病文化の変容：三十日病占から六十干支日病占へ
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアの歴史における病氣治療と呪術」（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 東アジア恠異学会（大江篤・久禮旦雄・佐々木聡分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東アジア恠異学会	5. 総ページ数 40
3. 書名 東アジア恠異学会20周年記念展示 吉兆と魔除け-恠異学の視点から-	

1. 著者名 小山聡子編（大江篤・佐々木聡分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 306
3. 書名 前近代日本の病気治療と呪術	

1. 著者名 大江 篤	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 168 (24-35)
3. 書名 皇位継承の歴史と儀礼	

1. 著者名 大江 篤（久禮旦雄分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 168 (36-43、141-137)
3. 書名 皇位継承の歴史と儀礼	

1. 著者名 東アジア恠異学会編（大江篤分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 356（11-39）
3. 書名 恠異学の地平	

1. 著者名 東アジア恠異学会（久禮旦雄分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 356（60-81）
3. 書名 恠異学の地平	

1. 著者名 東アジア恠異学会（佐々木聡分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 356（40-59）
3. 書名 恠異学の地平	

1. 著者名 「京都の御大礼」展実行委員会、所 功（久禮旦雄分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 240（84-85）
3. 書名 京都の御大礼	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久禮 巨雄 (KURE ASA0) (50726990)	京都産業大学・法学部・准教授 (34304)	
研究分担者	佐々木 聡 (SASAKI SATOSHI) (60704963)	金沢学院大学・文学部・講師 (33305)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関